

# 連結損益計算書分析

## 売上高

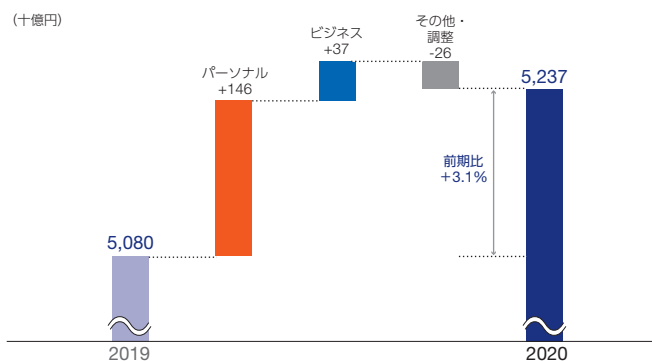
(3月31日に終了した各決算期)

前期比

↑3.1%増

5兆2,372億円

端末販売収入の減収を、総合ARPA収入やMVNO収入の増収、エナリス・じぶん銀行の連結影響、ビジネスセグメントの増収で補い、売上高は前期比3.1%増となる5兆2,372億円となりました。



## 営業利益

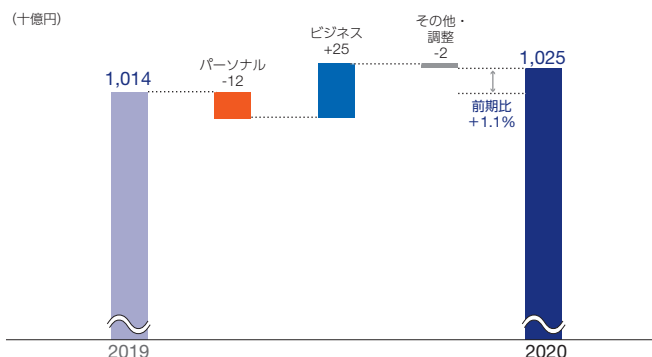
前期比

↑1.1%増

1兆252億円

上期の一時的な減益要因や、持続的成長のためのコスト投下、新型コロナウイルス感染症を見据えた減損損失などによる減益を、ライフデザイン領域やビジネスセグメントといった成長領域の増益で補い、営業利益は前期比1.1%増となる1兆252億円となりました。

なお、ライフデザイン領域、ビジネスセグメントはいずれも前期比20%を超える増益となりました。



## 親会社の所有者に帰属する当期利益

前期比

↑3.6%増

6,398億円

税引前当期利益の増益などにより法人所得税費用は増加したものの、営業増益や非支配持分利益の減少などが寄与した結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比3.6%増となる6,398億円となりました。

## 1株当たり配当金

前期比

↑10円増

115円

年間配当金は、18期連続となる増配を達成しており、前期比10円増配となる115円、連結配当性向は41.7%となりました。